

保育指導案

- 1 日 時 平成28年10月26日(水) 8:15~10:40
- 2 組 名 き1組(5歳児) 男児13名 女児16名 計29名
き2組(5歳児) 男児13名 女児17名 計30名
- 3 場 所 遊戯室
- 4 保育内容 き組の「にこにこキャンプ場」を作ろう!遊ぼう!

5 子供の姿・環境と教師の援助

○ 子供の姿

1学期に電車に乗って園外保育に出かけた経験から、子供たちは電車やトンネルを作ったり、線路をつなげたりして遊ぶ活動を楽しんだ。クラスにとどまらず、園全体を使い、き組全員で共通の目的に向かった遊びに発展し、異年齢の友達を招待し喜んでもらったことで、満足感や達成感を味わう姿が見られた。一方で、自分の思いだけで遊びを進めようとする子供や、友達に思いを伝えられない子供の姿も見られた。

夏休み後には、キャンプやバーベキューをした経験を話す子供が多く、園庭にある遊具にシートをかけテントに見立てて遊んだり、色ケントで野菜や肉を作って焼くまねをしたりする姿が見られた。キャンプの道具を作った友達の話を聞いたり、みんなで橘神社に行き秋見付けをして遊んだりした経験から、子供たちは「橘神社でキャンプをしたら楽しそう!」という思いや願いをもつようになった。「かまどがあったら楽しそう」「みんなで作ろう」と、友達とキャンプの道具作りをする中で、橘神社でのキャンプへの期待感が高まっている様子だった。

橘神社では、作ったキャンプの道具や、本物のテント・寝袋を使って遊んだり、ドングリや栗、枝などを遊びに取り入れたりしながら、キャンプごっこを楽しんだ。友達と共通のイメージをもって遊ぶ中で、相手に分かるように自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりする姿が増えてきた。

園に帰ってからも、子供たちは「幼稚園でキャンプがしたい」という思いや願いをもっていた。作った道具を遊戯室に持っていきキャンプごっこを楽しむ中で、遊戯室を橘神社のような森にしたという思いが生まれ、友達と木や山を作る中で、友達の思いやアイデアを取り入れる姿が見られ始めた。また、保育室前に小さなテントを作り、友達と一緒にテントに入って寝転んだり、「テントの中でパーティーしたら楽しそう」などイメージを膨らませて会話を楽しんだりする中で、「もっとたくさんテントを作りたい」「大きなテントも作ってみたい」という思いが膨らんできている。

○ 環境と教師の援助

これまで、キャンプの楽しいイメージが広がっていくように、キャンプに関する絵本を読んだり、遊びに使えるようシートや色ケントなどの材料を用意したりしてきた。さらに、5歳児だけで橘神社にでかける計画を立てたりし、子供の思いや願いが実現していくよう援助したり、子供たちがキャンプごっこを楽しむ様子に共感したりしてきた。道具作りでは、キャンプごっこを楽しみにする気持ちに共感しながら、何が必要か一緒に考えたり、作ったりした。ガムテープやマジックなどの用具は、遊びの中で自由に使えるようにし、必要に応じて扱い方を考えられるようにしてきた。その中で、友達と一緒に試したり工夫したりする姿を認めてきた。友達の思いに気付くことが難しい様子が見られた時には、教師が子供の思いに寄り添いながら話を聞き、互いの思いを伝え合うことができるようにかかわってきた。橘神社のキャンプごっこでは、本物のテントや寝袋を用意し、キ

キャンプのイメージをより豊かにもちながら遊べるようにした。また、新聞紙やガムテープ、麻紐などを用意し、友達と試行錯誤しながら道具を作って遊ぶ様子を見守った。

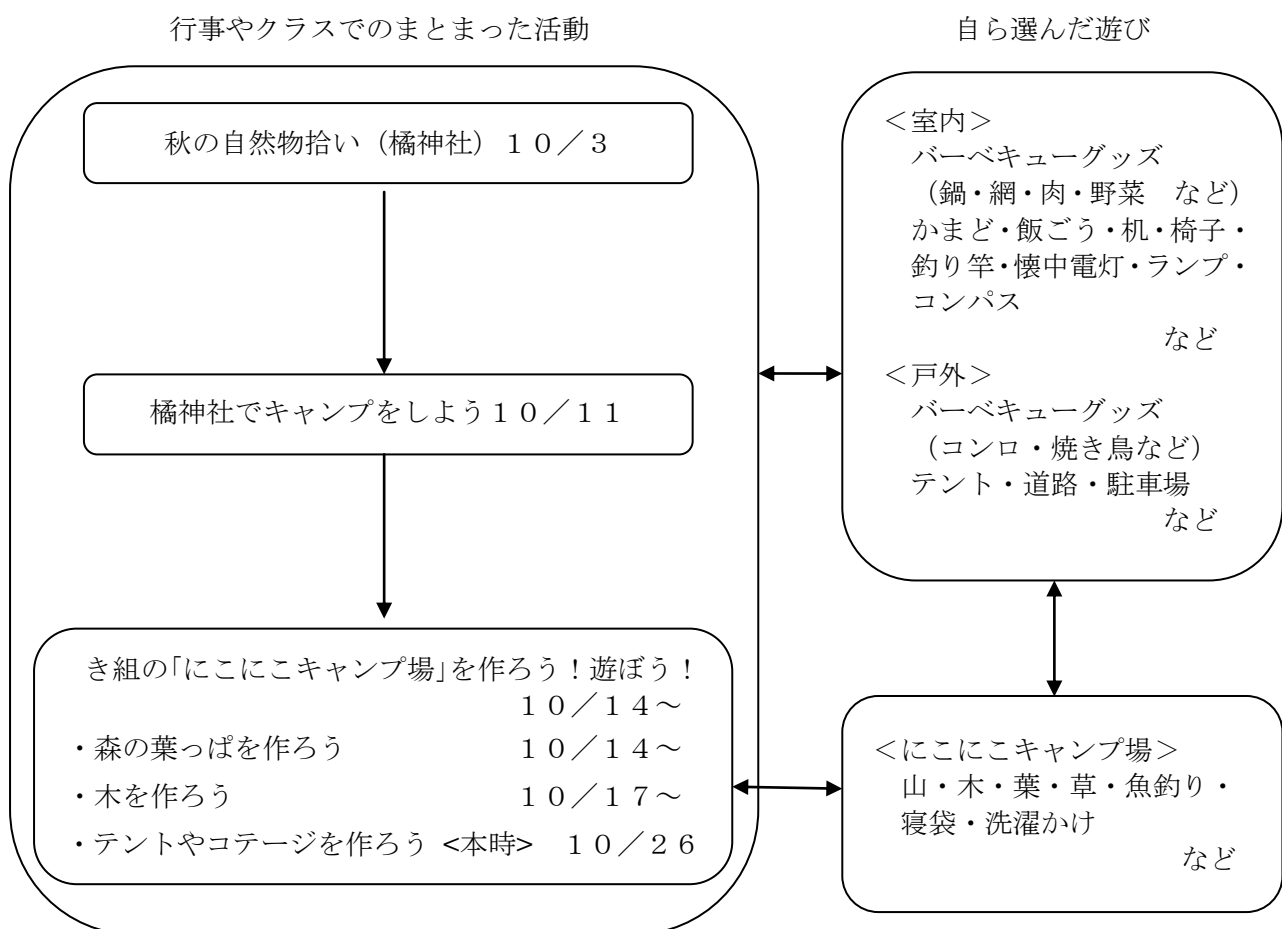
遊戯室では、よりキャンプ場のイメージを膨らませながら作っていけるように、材料の使い方や作り方を考え合えるようにかかわってきた。また、筒や枝など多様な素材を用意し、遊びの様子を見守りながら用具や材料の配置や量などを再構成している。思いがぶつかり合っている時や思いが伝えられず困っている時には、相手の思いに気づき、自分の思いを伝えることができるようにかかわりながら援助している。

グループ内だけでなく、5歳児全員でいろいろとアイデアを出し合い、共通の目的に向かって一緒に協力してダイナミックな遊びができる楽しさや、できた時の達成感や満足感を味わってほしい。そのために、全体での振り返りの時間を大切に、友達のアイデアに興味をもったり、自分の考えを伝えたりできるように援助していく。

6 ねらいと内容

- 友達と考えを出し合ったり、受け入れたりしながら、共通の目的に向かってキャンプ場を作って遊ぶ楽しさを味わう。
- 経験や思いを聞いたり、自分の言葉で伝えたりして、友達と伝え合う楽しさを味わう。
 - ・友達と考えを出し合いながら「にこにこキャンプ場」にテントやコテージなどを作る。
 - ・今日の遊びを振り返り、工夫したところ、楽しかったところ、困ったところなどを出し合う。

7 本時までの遊びの流れ



8 評価の観点

<子供>

- 友達に思いを伝えたり、受け入れたりしながら、共通の目的に向かってキャンプ場を作って遊ぶ楽しさを味わっていたか。
- 友達の考えを聞いたり、一緒に考えたりして明日の遊びに期待をもっていたか。

<教師>

- 子供たちの思いを実現できるような材料や用具を用意することができていたか。
- 友達と思いや考えを伝え合えるように、思いに寄り添ったり代弁したりしていたか。
- 自分なりの言葉で伝えたり友達の思いや考えに気付いたりできるようかかわっていたか。

9 保育の展開

時刻	環境構成	予想される活動	教師の援助
8:15	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に見通しがもてるように1日の流れをホワイトボードに記入しておく。 ○図鑑や飼育ケースをテラスに用意する。 ○製作遊びができる材料や用具を用意する。 (空き箱・牛乳パック・筒・マジック・セロハンテープ・ガムテープ・色ケント・広告紙) 	<ul style="list-style-type: none"> ○登園する。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と挨拶を交わす。 ・シールを貼る。 ・荷物の整理をする。 ・フウセンカズラの水やりや種取りをする。 ○好きな遊びをする。 〈園庭〉 <ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこ・固定遊具・生き物の観察 など 〈室内〉 <ul style="list-style-type: none"> ・バス遊び・キャンプごっこ・製作遊び・絵本 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子供と笑顔で挨拶を交わし、温かく迎えるとともに、心身の状態を把握する。 ○朝の支度を自分でできるように見守る。 ○身近な自然や生き物とかかわる中で子供が発見したり、気付いたりしたことを受け止め、共感していく。 ○友達と作る楽しさを感じられるように、製作物ができていく喜びに共感したり、できたもので一緒に遊んだりする。 ○トラブルが起きた時には、見守ったり、それぞれの思いを受け止めたりし、互いに思いが伝えられるようにかかわる。
8:45		<ul style="list-style-type: none"> ○片付けをする。 ○トイレに行き、手洗い・うがいをする。 <p>【き組の「にこにこキャンプ場」を作ろう!遊ぼう!】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に協力しながら片付けをし、きれいになった気持ちよさを味わったり次の活動に期待をもったりできるようにする。
9:05	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで活動しやすいようにグループで必要なガムテープ・鉛筆・はさみをかごに入れておく。 ○前日の遊びでグループの友達と選んだ材料を各グループの場所に置いておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊戯室に集まる。 ○話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・前日の遊びを振り返る。 ○グループの友達とテントやコテージを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲をもって作っていけるように、前日の遊びを振り返り、テントやコテージ作りの意欲が湧くように話す。 ○見通しをもって遊べるように、事前に片付けの時間を知らせしておく。 ○自分の考えを言葉で伝えられるように、子供の思いを引き出すようなかかわりをする。

<p>10:00</p>	<p>○材料を取りやすいように遊戯室の真ん中に置く。 (段ボール・牛乳パック・ペットボトル・筒・新聞紙・模造紙・クラフト紙・スズランテープ・PPロープ・麻紐・竹ひご)</p> <p>○必要に応じて出すことができるように、材料を用意しておく。 (カラーポリ袋・シーツ・不織布)</p>	<p>○片付けをする。</p> <p>○集まる。 ○作って遊ぶ中で友達と話したこと、頑張ったこと、工夫したこと、困ったことなどを出し合う。</p>	<p>○遊びに参加できにくい子供の姿が見られた場合には、グループの友達が気付くことができるような声かけをしたり、気持ちを聞き代弁したりしながら、一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。</p> <p>○自分の思いだけで進めている子供の姿が見られた場合には、思いを認めていきながら周囲の友達の様子に気付くことができるようにかかわる。</p> <p>○作っている中で困っているグループには、一緒になって考えたり他のグループの様子に気付くことができるようにかかわったりし、自分たちなりに考えて活動を進めていけるようにする。</p> <p>○いざこざが起きた時には、見守ったり、機会を捉えて互いの思いに気付くことができるようにかかわったりし、思いを伝え合う大切さを感じられるようにする。</p> <p>○楽しかった満足感やできなかつた悔しさに共感しながら、協力して片付けができるように、必要に応じ声をかける。</p> <p>○楽しかった思いや困った気持ちを受け止めながら自分の言葉で思いを表現できるような雰囲気づくりをする。</p> <p>○他のグループのよいところに気付いたり、困ったことについて一緒に考えたりしながら、明日の遊びに期待がもてるようにする。</p>
<p>10:40</p>		<p>○降園する。</p>	

<遊戯室>

